

---

# リンドバーグによろしく

黒い猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リンドバーグによるしく

### 【Nコード】

N3978E

### 【作者名】

黒い猫

### 【あらすじ】

死に向き合う君。引き留める事を止めた僕。2人の間には何も残らない。

リンドバーグによろしく。

ああ！今、君は大空に羽ばたこうとしている！全てを投げ出し、幾多の友人を傷付け、血の繋がりのある者を泥沼に捨て、恋する者をも孤立にさせようとしている！そして君は、自らの肉体さえも細切れの破片へと貶めようとしているのだ。

「女など汚い生き物だ！嘘をこよなく愛する卑しい生き物だ！」

僕は叫ぶ。でも、君は何も答えない。ただ空を見上げ、旋毛の一部を僕に見せつけているだけだ。もう行くんだね。ああ、僕はもう止めはしない。君がその足場から君が両手を広げ、大空ではなく地面へ叩き付けられると知りながらも、やはり僕は君の手や足や、襟元を掴もうとは思わないのだ。

それは君自身が決めた事だからだとか、君の意見を尊重するからだとかではない。そこまで僕も大人ではない。ただ、僕は信じたい。君がその高き足場から颯爽と飛び跳ねた瞬間、君の背に二つの羽が生え、それが大きな翼となり、鋭い爪をも手に入るかもしれない事を。

僕は君を見下すよ。この先も下に見るよ。でも、心のどこかで君を尊敬する気持ちもあるんだ。僕には君のような勇氣はない。覚悟も決断力も、まるでないんだ。そう、僕はこの先も仕方なく延々と暗々と生き延びるしかないんだよ。ひっそりと明日の時間に身を置くしかないんだよ。今日よりも確実に後退した明日の時間にね。

「男は女よりも劣る！それは君も解っていた事だろう！」

僕の最後の叫びに対し、君はもう、後ろを振り向こうともしないかと言つて未来に進む訳でもない。仮に僕の右目を剝り貫き、その窪んだ真つ黒な場所へ、あの彼女の左目を埋め込んだとしても君は見向きもしないだろう。少しは気に掛ける事はあつてもね。だけれども、僕の残りの左目を抉り、そこに君が飼っているシヤム猫の瞳を埋め込んだなら、君はどうする？少しは動揺するかい？

ああ、もう時間なんだね。最後に君の声を聞きたかつた訳ではないけれど、結局一言も発しなかつたね。君らしいと言えば君らしいよ。いや、もしかすると君の本心を僕は、たつたの一つでも聞いた事がなかつたのかもしれない。君、どうなんだい？僕が見ていた君は、本当に君だったのかい？君は皆に、君を見せた事があつたのかい？

ああ、もう飛ぶんだね。

さようなら、君。

もしも大空に羽ばたけたなら、いや、羽ばたけず地面に身体を打ち付けたとしても、

その時は、リンドバーグによるしく。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3978e/>

---

リンドバーグによるしく

2010年12月12日07時52分発行